



篠塚 Jr 建太 ラリーデビュー

魅力に触れ満足

日本のラリードライバーの第一人者、篠塚建次郎(60)の長男・建太(21)が24日にラリーデビューを果たした。岐阜県高山市で行われた「2009 TRD ヴィッツチャレンジ」に出場したもので、マニュアル車に慣れないこともあって結果はダントツの最下位。しかし、偉大な父を夢中にさせたラリーの魅力に触れ、建太は満足そうだった。

◇ 建太のラリー挑戦は、知人から誘われて始まった。相談すると父は大喜びで、友人の舟木良氏にナビを頼んでくれた。だが建太は大学3年生時にマニュアル(MT)免許を取得したも父建次郎氏(右)のアドバ

ダントツ最下位も将来は「海外にも出場したい」

の、運転したのはほとんどオートマ車で、MT車に乗ったことがない。今回のラリー出場についても特に練習などせず、舟木氏と待ち合わせた八ヶ岳から高山まで競技車(ヴィッツ105RS)を運転しただけという、ほぼ素人同然だった。

そんな長男のデビューを心配そうに見守る父・建次郎はドライビングなどのアドバイスはいっさいせず、「とにかく完走を目指して走れ。タイムなんか気にせず、自分の好きなようにやってこい」とだけ指示したという。

そしてスタート。が、結果は大きく離れた最下位。それでも、苦笑いの父の横で建太は晴れやかな表情をみせた。「面白かったけど、不完全燃焼かな。また機会があれば出てみたいけど、親が一流だから速く

て当たり前みたいで重たいです。父のようになろうとも、なれるとも思ってません。ただ、父をあれだけ夢中にさせた道を走ってみたいと思っただけです。そんななかで自分を探しながらきっちり走れるように経験を積まなければね」と建太。将来は「海外にも出場できるようになりたい」というが、いくら篠塚ジュニアといえども、まだまだ歩きはじめた子どものようである。まるで予測がつかない段階なのである。



ほぼぶっつけ本番のラリーデビュー戦を力走する建太